



報道関係各位

株式会社テレビマンユニオン／株式会社十勝毎日新聞社

文化庁メディア芸術祭十勝帯広展「メディア芸術の林間学校」開催のご案内

この秋、メディア芸術の林間学校が帯広に！
“タイムマシン” 野外展示、アニメーション野外上映、『ジョジョリオン』特別展示、
『水曜どうでしょう』D陣×飯田和敏(ゲーム作家)、
湯浅政明(アニメーション監督)上映&トークが一同に！！

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰し、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。「メディア芸術の林間学校」は、この受賞作品を紹介する展覧会として、2014年10月に十勝帯広で開催されます。本展では、「十勝帯広のみんなとつくる《メ芸》」を目指して、地域のみなさんとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいます。

森の草原、水辺といった多様な自然環境を有し、様々な動植物たちが息づく「十勝千年の森」を舞台に繰り広げられる、メディア芸術版野外フェス。

見て、聞いて、触って、走って、笑って、そして驚いて—。秋の十勝の森に、ぜひメディア芸術を体験しにいらしてください。

よく遊び、よく遊ぶ。

ようこそ、世界でここだけの林間学校へ。

■開催概要■

【会期】2014年10月1日(水)～10月13日(月・祝)

【会場】メイン会場：十勝千年の森（北海道清水町羽帯南10線）

11:00 - 17:00（期間中無休） ※10/4・5・11・12・13は野外上映会あり（17:30より）

サテライト会場：帯広市図書館（帯広市西2条南14丁目3番地1）

火～金 10:00 - 20:00 土・日・祝 10:00 - 18:00 月曜休館

※インフォメーションコーナー：帯広市役所（北海道帯広市西5条南7丁目1） 平日 10:00-17:30

【観覧料】無料 ※「メディア芸術の林間学校」の展示エリアのみ無料。

展示エリア以外の場所へ入るには「十勝千年の森」の入場料が必要です。

【Web】<http://www.mediaarts-tokachi.com> 【Facebook】<https://www.facebook.com/mediaartstokachi>

【主催】文化庁 【後援】帯広市／帯広市教育委員会

【企画・運営】文化庁メディア芸術祭十勝帯広展事務局(株式会社テレビマンユニオン／株式会社十勝毎日新聞社)

【本件に関するお問い合わせ】

文化庁メディア芸術祭十勝帯広展事務局（株式会社テレビマンユニオン事業推進部内）担当：杉本・田村

E-mail: rinkan_tokachi@tvu.co.jp Tel: 03-6418-8400 Fax: 03-6418-8742



■メイン会場：十勝千年の森 の展示・上映■

メイン会場となる「十勝千年の森」。東京ドーム約60個分の広さを誇る園内には、多種多様な庭園が整えられ、馬や山羊などの動物が飼育されています。
本展では、この園内の一角を特別に開放し、星空の下で楽しむ野外上映会「星空映画祭」を開催。このほか、みんなでかけっこをしながらメディアインスタレーションを体験する「草原の運動場」、メディアアートの名作を見ることのできる「木陰の秘密基地」が登場します。さらに、インスタレーションや映像作品を紹介する「小屋の美術室」、園内でマンガやアニメーションを自由に持ち運び、読書や作品鑑賞を楽しむ「森の図書館」も開設。
豊かな自然に囲まれ、リラックスした雰囲気の中でメディア芸術作品をお楽しみいただけます。



【アクセス】

JR 帯広駅から車で約45分
とち帯広空港から車で約60分
JR 十勝清水駅からタクシーで15分
羽田空港-とち帯広空港間
飛行機で約1時間35分
北海道清水町羽帯南10線
TEL/0156-63-3000

【星夜の映画祭】

野外上映！

星空の下で観たい、スケールの大きな物語。特設野外スクリーンでアニメーションの世界を体験！
※10月4・5・11・12・13日17:30より各日1作品を上映します。



写真は『サカサマのパテマ』

©Yasuhiro YOSHIURA / Sakasama Film Committee 2013

※事前予約の必要はありません

※雨天の場合は同会場内「小屋の美術室」
で上映します。

[上映ラインナップ]

10月

4日(土) 『サカサマのパテマ』

原作・脚本・監督：吉浦 康裕

5日(日) 『雲のむこう、約束の場所』 新海 誠

11日(日) 『グスコブドリの伝記』 杉井 ギサブロー

12日(日) 短編アニメーションセレクション

『かまくら』 水尻 自子

『rain town』 石田 祐康

『つみきのいえ』 加藤 久仁生 ほか

13日(月・祝) 『千年女優』 今 敏



【草原の運動場】

野外展示！



©2013 Sports Time Machine



『スポーツタイムマシン』野外バージョン展示イメージ（予想図）

メディアインスタレーション（2013-）

『スポーツタイムマシン』 犬飼 博士／安藤 僚子

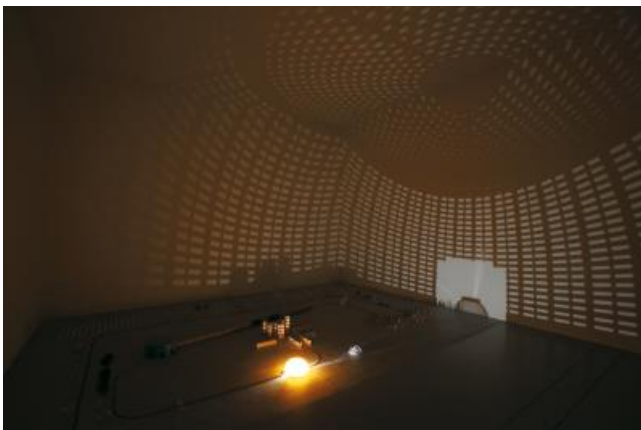
平成 25 年度[第 17 回]文化庁メディア芸術祭
エンターテインメント部門 優秀賞

壁に投影される昔の記録と実際に「かけっこ」できる装置で、「山口情報芸術センター [YCAM] 10 周年記念祭」をきっかけに誕生した世界で最初の“スポーツのタイムマシン”。過去の自分や、家族、友達、スポーツ選手、動物、さらには十勝帯広ならではの「アイツ」の走った記録ともガチンコ勝負！自身の走った記録は 3D データで同時に保存される。「走る」という行為が思い出だけでなく、メディアとして存在し続けることの面白さに着目した本作は、スポーツを通じて、過去、現在、未来を横断した身体コミュニケーションを提供する。

今回は作者の念願でもある、本作初の野外バージョンとして十勝千年の森に出現。

【木陰の秘密基地】

野外展示！



© クワクボ リョウタ

メディアインスタレーション（2010-）

『10番目の感傷 (点・線・面)』

クワクボ リョウタ
平成 22 年度[第 14 回]文化庁メディア芸術祭
アート部門 優秀賞

暗い部屋の中を走る鉄道模型。その鉄道模型の先頭に搭載された点光源が映し出す影による映像。移ろいゆく風景の映像が私たちの記憶を呼び起こし、懐かしさと新鮮さが入り混じった不思議な体験に出会えます。



【小屋の美術室】



©2013 AKAMATSU Masayuki
and ARART Project All Rights Reserved.

メディアインスタレーション (2013-)

『ものみるうごくAR美術館』 赤松 正行

平成 25 年度[第 17 回]文化庁メディア芸術祭
アート部門 審査委員会推薦作品

展示された絵やイラストを携帯端末のカメラを通して見ると、動くはずのない絵が変化したり、挿絵のキャラクターが動き出したり…。AR という技術によって広がる物語の世界を、楽しみながら体験できる作品です。



©Honda Motor Co., Ltd.
and its subsidiaries and affiliates.

映像、ウェブサイト、メディアインスタレーション、サウンド (2013)

『Sound of Honda / Ayrton Senna 1989』

菅野 薫／保持 壮太郎／大来 優／キリーロバ ナージャ／
米澤 香子／関根 光才／澤井 妙治／真鍋 大度

平成 25 年度[第 17 回]文化庁メディア芸術祭
エンターテインメント部門 大賞

1989 年の F1 日本グランプリ予選でアイルトン・セナが樹立した世界最速ラップの走行データを用い、彼の走りを音と光でよみがえらせた。

本展ではこの壮大なプロジェクトの記録映像を上映します。

●映像上映●

拡張する現実！

—アート映像セレクション—

『Pendulum Choir』

Cod. Act (Michel DÉCOSTERD /
André DÉCOSTERD)

『particles』

真鍋 大度 / 石橋 素

『つながる天気』 片山 義幸

『HIMATSUBUSHI』 植木 秀治

『touched echo』 Markus KISON

前へ！ゆるく、前へ！

—エンターテインメント映像セレクション—

『トラヴィス「ムーヴィング」』 Tom WRIGGLESWORTH / Matt ROBINSON

『やけのはら「RELAXIN'」』 最後の手段 (有坂 亜由夢 / おいた まい /
コハタ レン)

『SPACE BALLOON PROJECT』 大八木 翼 / 馬場 鑑平 / 野添 剛士 / John POWELL

『九州新幹線全線開業「祝！九州縦断ウェブ」総集編』 古川 裕也

『森の木琴』 原野 守弘 / 西田 淳 / 山田 のりこ / 松尾 謙二郎 / 菱川 勢一 /

津田 三朗 / 山本 栄太郎 / 鈴木 陵生 / 木村 仁 / 大磯 俊文 / 千原 秀介 /

吉野谷 綾子

『amazarashi「夏を待っていました」』 YK BX



【森の図書館】



写真は『海獣の子供』

© 五十嵐大介 / 小学館 IKKI

—マンガセレクション—

- 『千年万年りんごの子』 田中 相
- 『ヒストリエ』 岩明 均
- 『ヴィンランド・サガ』 幸村 誠
- 『海獣の子供』 五十嵐 大介
- 『ピアノの森』 一色 まこと
- 『Real Clothes』 槇村 さとる
- 『よつばと!』 あずま きよひこ
- 『蟲師』 漆原 友紀



写真は『かまくら』

©Yoriko Mizushiri. 2013

—アニメーションセレクション—

- 『かまくら』 水尻 自子
- 『rain town』 石田 祐康 ほか



■サテライト会場：帯広市図書館 の展示・上映■

JR 帯広駅から徒歩2分にある帯広市図書館。連日多くの人が訪れるこの図書館に「メディアの林間学校」の“分校”が登場します。『ジョジョリオン—ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』をはじめとして、メディア芸術祭の最新の受賞作品を中心に、マンガを存分に堪能していただけます。

【アクセス】

北海道帯広市西2条南14丁目3番地1

TEL/0155-22-4700

JR 帯広駅南口から徒歩2分

【まちな分校】



© LUCKY LAND COMMUNICATIONS/SHUEISHA

特別展示

「ジョジョリオン —記憶を辿る旅—」

荒木飛呂彦『ジョジョリオン—ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』の直筆マンガ原稿が帯広市図書館に！会場には、大型パネル、制作風景の映像等も登場。主人公「東方定助」の記憶を辿る旅を追体験する特別展示です。

『ジョジョリオン

—ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』

荒木 飛呂彦

平成25年度[第17回]文化庁メディア芸術祭
マンガ部門 大賞



写真は『岳 みんなの山』

© 石塚 真一

【マンガベストライブラリー！】

メディア芸術祭受賞作品を読もう。

『昭和元禄落語心中』 雲田 はるこ

『ジョジョリオン

—ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』 荒木 飛呂彦

『それでも町は廻っている』 石黒 正数

『ちいさこべえ』 望月 ミネタロウ／原作：山本 周五郎

『ひきだしにテラリウム』 九井 諒子

『アリスと蔵六』 今井 哲也

『闇の国々』

ブノワ・ペータース／フランソワ・スキイテン

訳：古永 真一／原 正人

『岳 みんなの山』 石塚 真一

『GUNSLINGER GIRL』 相田 裕

『土星マンション』 岩岡 ヒサエ

『あの日からのマンガ』 しりあがり 寿

『秘密 トップ・シークレット』 清水 玲子



■イベント■ 要予約(予約方法は公式Webサイトをご覧ください。)

トークイベント「それで、メディア芸術って何なの？」

十勝千年の森

『水曜どうでしょう』の制作陣にして、文化庁芸術祭賞テレビ・ドラマ部門優秀賞受賞作品『ミエルヒ』の藤村忠寿さん(演出)と嬉野雅道さん(企画・プロデュース)が、「作品の見方、楽しみ方」から「メディア芸術とは何か？」という深遠な問いまで、メディア芸術祭審査員と一緒に考えてみるトークライブ!



藤村 忠寿



嬉野 雅道



飯田 和敏

【日時】10月5日(日)14:00~15:00

【会場】十勝千年の森 【入場料】無料

【出演者】藤村 忠寿 (HTB 北海道テレビ)

嬉野 雅道 (HTB 北海道テレビ)

飯田 和敏 (ゲーム作家/デジタルハリウッド大学教授/文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門審査委員)

アニメーション上映&トークイベント「湯浅政明監督が語る。アニメーションとは」

帯広市図書館

文化庁メディア芸術祭アニメーション部門で過去に大賞を2度受賞(『マインド・ゲーム』(第8回)、『四畳半神話大系』(第14回))し、長編劇場アニメーションや、テレビアニメーションにおいて、これまでに見たことのない動きを生み出すなど、常に新しい映像表現を切り開いてきたアニメーション監督の湯浅政明氏。メディア芸術としてのアニメーションの創造力について迫る、メディア芸術の白熱教室!



『四畳半神話大系』

©四畳半主義者の会



『ピンポン』

©松本大洋・小学館/
アニメ「ピンポン」製作委員会

【日時】10月11日(土) 【入場料】無料

【時間】15:00~16:00 上映『四畳半神話大系』『ピンポン』

※それぞれ湯浅監督おすすめの1話を上映します。

16:15~17:15 特別講義

「湯浅政明監督が語る。アニメーションとは」

【会場】帯広市図書館

【出演者】湯浅 政明 (アニメーション監督)

●湯浅 政明●



1965年福岡県生まれ。大学卒業後、亜細亜堂に参加。その後、フリーランスとなり『クレヨンしんちゃん』『ちびまる子ちゃん』などを手掛ける。04年映画『マインド・ゲーム』で初監督を務め、第8回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞、第59回毎日映画コンクール大藤信郎賞などを受賞。10年テレビアニメ『四畳半神話大系』では、テレビアニメ初となる第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞を受賞した。そのほかの監督作品として『カイバ』『ケモノヅメ』があり、最新作は14年『ピンポン』となる。



■十勝帯広のみんなとつくる《メ芸》■



『スポーツタイムマシン』展示イメージ(予想図)

「メディア芸術の林間学校」は、十勝帯広のみなさんといっしょにつくる展覧会として着々と準備が進行しています。運営のお手伝いだけでなく、内容に関わるところまで一緒に知恵を出し合いながら進めています。

左の図は、本展の主要な出展作品のひとつ『スポーツタイムマシン』の作者の一人である安藤僚子さんによる、今回の展示のイメージ図です。作品を設置して終わりではなく、作家、展覧会スタッフ、地域のみなさんがコミュニケーションをとれる場が併設され、みんなで一緒に作品を楽しむ構成になっています。

「メディア芸術の林間学校」はこの『スポーツタイムマシン』をはじめとした作品・イベント・ワークショップなどを、地域のみなさんと展覧会スタッフが一緒に作り、一緒に楽しむフェスティバルを目指しています。

【事前ワークショップ】



お面制作：清水小学校3年生のみなさん

みんなで作る「ふしぎな木」のワークショップ

十勝千年の森の奥に人知れずそびえる「ふしぎな木」と、そこに住むふしぎな住人達。今日は「ふしぎな木の村」の村長選挙。一番面白い顔をした人が、村長になれます！！

上の文章は、「メディア芸術の林間学校」関連企画として実施された事前ワークショップ「みんなで作る『ふしぎな木』のワークショップ」で使用された物語です。このワークショップでは十勝千年の森にほど近い清水町立清水小学校3年生のみなさんと一緒に「ふしぎな木の住人の顔のお面」を作りました。このお面は、展覧会チラシや公式 Web サイトなどで使用されています。





【研修&ワークショップ「テクノロジーと地域 地域と《メ芸》」】

地域のみなさんと展覧会スタッフとを交えた研修&ワークショップを開催します。
※近隣にお住まいの方を対象とした研修会です。一般の来場者の方はご参加いただけません。

研修「ICTで地域格差を埋める」

スマートフォンの普及やソーシャルメディアの浸透によって、ICTの利活用による地域の課題への取り組みが多く見られるようになってきました。一方で、「メディア芸術の林間学校」のような地方でのイベントも花盛り。この双方で先端的な取り組みを続ける今回の展覧会ディレクターと一緒に「ICTと地域の未来」を想像してみます。

ワークショップ

ありえたかもしれない『メディア芸術の林間学校』

展覧会スタッフとボランティアスタッフ・来場者・地域住民の方々…。今回の展覧会ディレクターが、この展覧会に関わったすべてのみなさんと一緒に考える「ありえたかもしれない展覧会」を考えるワークショップ。みんなの「こんなこともできたかもしれないね!」を集めて、来たるべく未来の展覧会の想像図を描きます。

【帯広畜産大学の「畜大祭」とコラボレーション!】

「メディア芸術の林間学校」は、十勝帯広で長年にわたって畜産技術の向上を担っている帯広畜産大学の大学祭「畜大祭」とコラボレーションしています。展覧会スタッフが畜大祭の企画にご協力しているほか、帯広畜産大学のみなさんには本展のボランティアスタッフとしてご協力いただいています。

【ボランティアスタッフ大募集!】

2014年10月に十勝帯広で開催されるメディア芸術の展覧会、
「文化庁メディア芸術祭 十勝帯広展〜メディア芸術の林間学校」にて、
イベント運営や会場設営をお手伝いいただけるボランティアスタッフを募集しています。
アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ〜メディア芸術に関心をお持ちの方、
展覧会運営に関わってみたい方、是非ご応募ください!

「メディア芸術の林間学校」ではボランティアスタッフを募集しています。イベント運営や展示作品設営をお手伝いいただける方のご参加をお待ちしています。

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ…メディア芸術に関心をお持ちの方、展覧会運営に関わってみたい方で十勝帯広にお越しいただける方は是非、ご応募ください。

ご応募について詳しくは公式 Web サイトをご覧ください。



■文化庁メディア芸術祭について■



平成 25 年度 [第 17 回] 文化庁メディア芸術祭受賞作品展

文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの 4 部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。

平成 9 年度 (1997 年) の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰し、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催しています。昨年度 [第 17 回] は、過去最多となる世界 84 の国と地域から 4,347 点の作品の応募があり、文化庁メディア芸術祭は国際的なフェスティバルへと成長を続けています。

また、文化庁では、メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的に、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を国内外で広く紹介する多彩な事業を実施しています。海外・国内展開や創作活動支援等の関連事業を通じ、次代を見据えたフェスティバルを目指しています。

[文化庁メディア芸術祭地方展]

文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に、インタラクティブアート、映像、ゲーム、ウェブ、アニメーション、マンガ作品等を総合的に紹介する展覧会を地方で開催しています。今年度は松山、十勝帯広、秋田で開催を予定しています。



©LUCKY LAND COMMUNICATIONS/SHUEISHA

昨年度〔第17回〕文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞作品
荒木飛呂彦 『ジョジョリオン —ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』
作品世界を楽しめる展示が全国3都市（松山・十勝帯広・秋田）へ巡回！

今年度、松山（愛媛）、十勝帯広（北海道）、秋田で開催する文化庁メディア芸術祭関連事業において、昨年度〔第17回〕文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞作品である荒木飛呂彦氏の『ジョジョリオン —ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』の直筆マンガ原稿等を含む展示が巡回します。

本企画は、文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に、メディアアート、映像、ゲーム、ウェブ、アニメーション、マンガ作品等を地方において総合的に紹介する展示会「文化庁メディア芸術祭地方展（主催：文化庁）」の一部として実施されるもので、各地域独自の企画展のなかに、「ジョジョリオン」の作品世界を楽しめる展示が登場します。

展示テーマは「記憶を辿る旅」。記憶喪失の主人公「東方定助」が自身の正体を探るこれまでのストーリーを、色鮮やかなイラストを再現したパネルで紹介するほか、直筆マンガ原稿（原画）や、制作風景を収録した映像等も展示します。

多数の原画をはじめ、普段見ることのできない貴重な資料をあわせて公開する本展を通じ、マンガ表現の魅力をご紹介します。

〔文化庁メディア芸術祭地方展 開催概要〕

主催：文化庁

●文化庁メディア芸術祭松山展「MOVE——メディアで拓がる身体表現」

【会期】9月5日（金）～21日（日） 【会場】愛媛県美術館 【休館日】9月8日（月）・16日（火）

【企画・運営】KaiWorks株式会社（Email：media_arts01@kaiworks.com）

●文化庁メディア芸術祭十勝帯広展「メディア芸術の林間学校」

【会期】10月1日（水）～13日（月・祝） 【会場】十勝千年の森、帯広市図書館

※「ジョジョリオン」展示会場は帯広市図書館 【休館日】10月6日（月）

【企画・運営】株式会社テレビマンユニオン／株式会社十勝毎日新聞（Email：rinkan_tokachi@tvu.co.jp）

●文化庁メディア芸術祭秋田展「DIG∞AKITA／メディア芸術、あきた」

【会期】仙北市 10月10日（金）～20日（月・祝） 【会場】なかの太田家の蔵

秋田市 10月25日（土）～11月3日（月・祝）【会場】アトリオン

※「ジョジョリオン」展示会場は秋田市・アトリオン

【企画・運営】秋田県広告業協会（Email：media_arts@akita-stage.com）